

# 高視認性服の導入推進

## 物流など業界ごとに資料作成

日本高視認性安全服研究所（JAVISIA、服部勝治所長）は23日、安全創造会議を開き、高視認性安全服の普及・啓発に向けた活動などについて報告し、交通事故・労働災害の撲滅を目的していく理念を改めて共有した。

認性安全服の導入を、物流、建設、警備など業界ごとに2段階で解説する検討資料を会員向けに用意していることを説明した。

共有した。

吉井秀雄代表理事は「歩行者、特に幼児、中高生など、交通弱者を巻き込む事故が増えている。いま一度、JAVISIA創設の理念を共有したい」として、高視



また、宅配、運送、郵便、廃棄物収集、警察、建設、新聞配達など14の職種別の着用、再帰性反射材のパターンなどをイメージした高視認性安全服の未来予想図を披露。「日々研究を重ねて皆さんへの情報提供に努めていく」と意欲を述べた。

活動報告では服部所長が、現在の会員数が117者に達したことを報告。アパレルメーカーや販売代理店、素材・染色事業者など提供側が多くを占めてきたが、「最近ユーザー紹介を受ける、標語の考案者、アイトスの松井さん（右端）

が増えている」ことに言及した。更に、会員を対象に実施した公募の結果、選定された高視認性安全服の標語「着る安心、視る安全」と、考案者の松井ひろみ氏（アイトス伊藤崇行社長、大阪市中央区）を紹介した。

その他、文化学園大学の小柴朋子教授が「災害時に向けた備蓄と日常用高視認性安全服の必要性」、日本環境設計（高尾正樹社長、東京都千代田区）の日比伸一郎ゼネラルマネージャーは「高視認性安全服の今すべき事 SDGs・サステイナブルの活用」をテーマに講演。吉井氏が高視認性安全服の適正な洗濯方法を報告した。（田中信也）